

## 今月の情勢 ～経済・金融の動向～

### 原油市況

原油価格は、3月23日のイランによる英国海軍兵士拘束以降、地政学リスクの高まりからWTI（期近物、終値）が1バレル＝66ドル台まで上昇。その後は英兵釈放に伴い小反落したものの、ウラン濃縮活動が続けるイランに対する警戒感が強く、60ドル台前半で推移している。当面は中東情勢の先行き不透明感やOPECによる高値維持スタンスのほか、中国・インドなど新興国の高成長による原油需要増加が持続していることもあり、原油価格の高止まりが予想される。

### 米国経済

米国の06年10～12月期の実質GDP成長率（確定値）は前期比年率＋2.5%と、住宅や在庫、設備投資が減少したものの、消費や外需が成長率を押し上げた。非農業雇用者数の増加基調が続くなど雇用環境が堅調である一方、住宅市場の低迷と製造業の在庫調整が続いている。07年4月調査によれば、米国エコノミストは先行き成長見通しを▲0.1～▲0.2%小幅引き下げたものの、07年後半にかけて緩やかに伸びが加速すると見込んでいる。一方、米政策金利は3月21日に6回連続で5.25%に据え置かれたが、米政策当局（FRB）は経済指標が強弱まちまちとする一方、インフレ警戒感を緩めておらず、当面は現状維持の政策が続くと考えられる。

### 国内経済

わが国では、企業部門の好調さに支えられ、緩やかな景気回復が続いている。06年10～12月期の実質GDP成長率（第2次速報）が前期比＋1.3%（年率＋5.5%）と、8四半期連続のプラス成長となった。2月の鉱工業生産は2ヶ月ぶりに前月比プラスとなったものの、電子部品・デバイス工業の在庫は上昇しており、在庫・生産調整が懸念される。一方、設備投資は企業収益の改善を受け増加傾向が続いており、先行指標となる機械受注（除く船舶・電力）は2月に前月比マイナスとなったが、1～3月は引き続き増加する見通し。また4月2日発表の日銀「短観」（3月調査）によれば、設備投資（含むソフトウェア、除く土地）は大企業中心に07年度も増勢が続く見通し。さらに大企業の賃上げ率が2年連続で小幅上昇し、パート賃金も緩やかに上昇するなど、雇用・所得環境の改善を背景に先行き消費拡大への期待から消費者マインドも改善している。

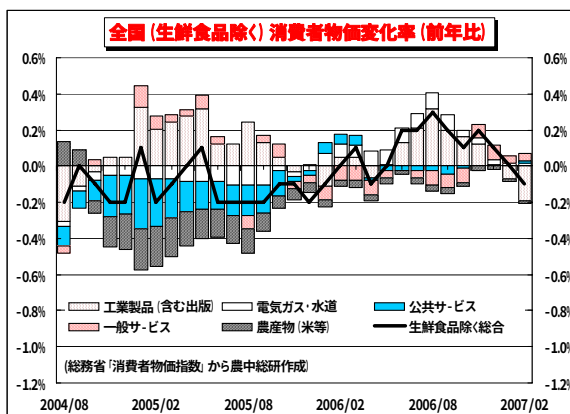
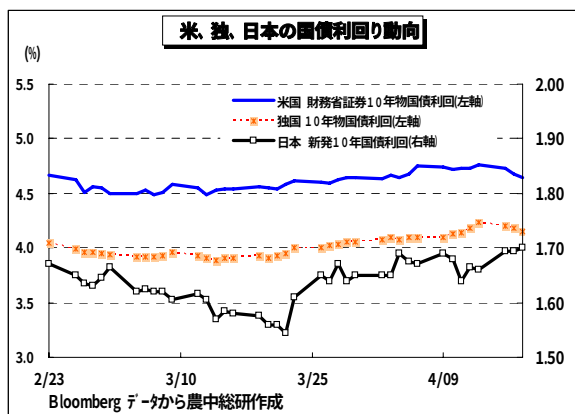
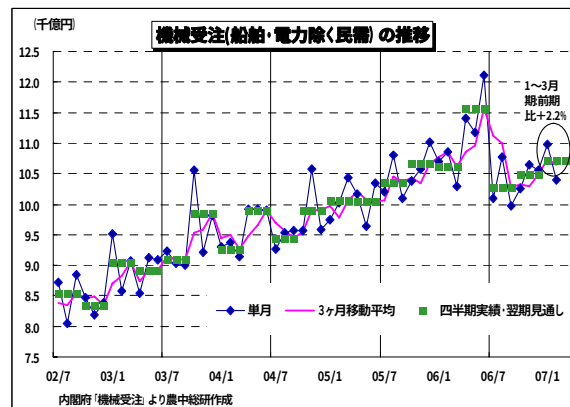
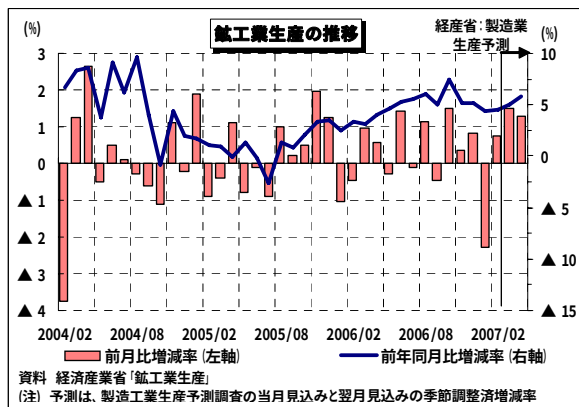
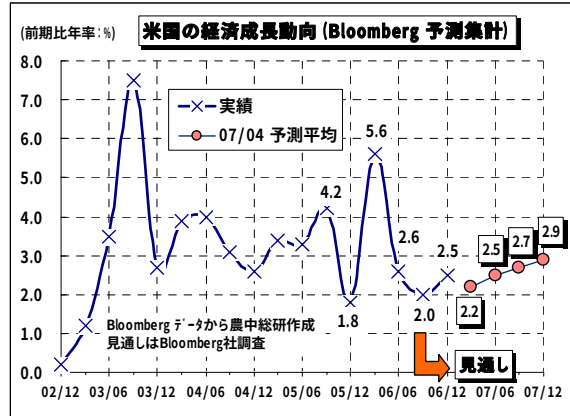
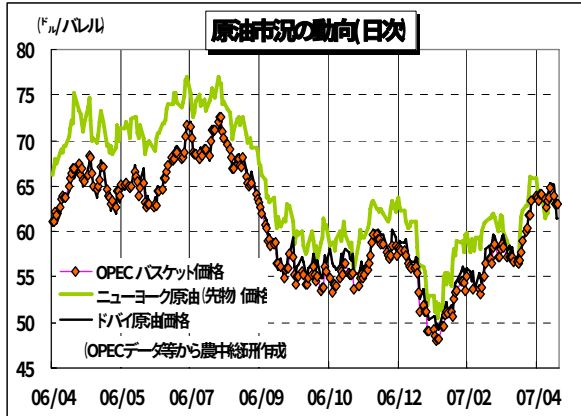
### 金利・株価・為替

外為市場では、2月27日の中国株価急落を引き金に世界同時株安となった直後に円キャリー取引解消の観測からドルが売られ115円台前半まで円高が進んだが、その後は円安となり、4月13日に開催されたG7（7カ国財務相・中央銀行総裁会議）では現状が追認され円安傾向が続いた。足元では米景気の先行き不透明感や日米金融政策への思惑などから円が買い戻され117円～118円台で推移している。一方、日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは、早期の追加金利引き上げが想定しにくいことから1.6%台で低位安定的に推移。日経平均株価は2月中旬にITバブル後の戻り高値を更新して1万8,000円台に乗せた後、前述の世界同時株安時には1万6,000円台半ばまで下落。足元では1万7,500円前後で推移している。

### 政府・日銀の景況判断

政府は4月の「月例経済報告」で景気判断を「生産の一部に弱さがみられるものの、回復している」と回復判断は維持されたが、生産面の不安要因を挙げ表現を一部変更。日銀は4月の景況判断を「緩やかに拡大」と9ヶ月連続で判断を据え置いた。（07.4.19現在）

## 内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-「今月の経済・金融情勢」 <http://www.nochuri.co.jp> へ)